

2013

JAN. 1 vol. 33

東京成徳広報



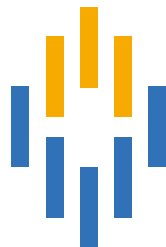
創立 20 年を迎える東京成徳大学



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	巻頭言「創立八十八周年を迎えて」 理事長 木内 秀俊
P 4	学園の動き
P 5	教育研究活動「子どもといじめ」 大学院研究科長 新井 邦二郎
P 6	東京成徳学園の歩み① - 創立から終戦まで -
P 8	国際交流
P 10	社会交流 吹奏楽部 深谷高校 栗谷遺跡の展示 八千代キャンパス
P 11	ひと「活躍する卒業生」 マルカイコーポレーション バイヤー 大島 久直さん (大学人文学部英語・英米文化学科卒)
P 12	就職状況
P 14	TOPICS 大学院 八千代キャンパス 十条台キャンパス 短期大学 中高一貫部 高等部 深谷高校 幼稚園 第二幼稚園
P 22	クラブ活動・ニュース
P 24	入試カレンダー・お問い合わせ先



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク
イエローは「活力」と「勇気」を表し、
三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、
同窓生を象徴しています。
ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五
本の柱は五つの教育目標を象徴していま
す。
そして、八本の柱が一体となり、東京成
徳学園とその学園に集う人々のヒューマ
ニティを作り上げる姿を表現しています。

表紙 創立 20 年を迎える東京成徳大学

平成 5 年に千葉県八千代市に人文学部が開学。その後、子ども学部、応用心理学部、経営学部を開設し、4 学部 8 学科を擁するまでに発展しました。写真は開学時から八千代キャンパスを見守る「樟」。



創立八十八周年を迎えて

理事長 木内 秀俊

学園は今年八十八周年の年を迎えます。末広がりと言われる八の字が重なる縁起の良い年であり、伝統を生かしつつ更に前進する節目となることを期待したいと思います。

教育目的を真摯に追求

学園および我が国の教育界を取り巻く環境には、厳しいものがあると考えております。この厳しさの意味は、巷間言われているような高等教育の教育水準への批判や経営面での困難が増しているということもありますが、根本的には何を教育の目的に据えて行くかということに對する揺らぎによるものだと考えております。教育の大きな目的の一つが次代を担う若者の育成にあります。現在わが国および世界が転換期にある中、学園はどのような内容の教育が次世代を担う若者に求められているかを真摯に追求し実行しなければならぬ時であると思

揺らぎをもたらすもの

① 価値観の多様化とIT化の進展
価値観の多様化は、ある意味自由で豊かな社会の所産であります。しかしながら現在問題とすべきは個々の意見の違いを過度に強調することにより大きなまとまりとして団結できなくなってきた状況があることです。よく「小異を捨てて大同につく」と言われます。何が小異で何が大同かは議論のあるところですが、私は「小異は残して大同につく」というのが正しいのではないかと思っています。現実の社会の中で小異は残しつつも大同団結できることは、人間社会を平和に維持するためには大切なことであると考えます。統合性を失い小異に拘って無駄な抗争を続けることほど無意味なことはいないと思います。このような社会では、知識・能力の涵養とともにその基盤となる信念・生き様が重要であると考えます。こうしたことから学園は「成徳」とい

う建学の精神を従来にも増して社会に示していく必要があると考えております。

また価値観の多様化に加えてITの急速な発展により個人単位の携帯電話・スマートフォンなどの情報伝達・加工手段が格段に進歩・普及したことが変化の要因として上げられます。この情報手段の発達は一昨年のいわゆる「アラブの春」でその影響力の強さを示しており、その個人単位で発信が出来て臨場感に溢れ即時性に富むメディアの登場は、基本的に編集行為が伴う既存のメディアの及ばない世界を垣間見せてくれます。ただこのようなメディアのもつ信用性には多分に疑問も持たれるところです。シングルイッシュューで人々の感情に訴え人々を扇動して悪しきポピュリズムに走る危険性も持っています。

② グローバル化による世界的な経済・社会構造の平準化傾向

発展途上国と言われた国々の経済的な発展と先進国と言われた国々に見られる停滞ないしは世界における相対的な位置の低下に表れています。平準化の側面は特に経済の面で顕著に見られるところで、国民国家としての国の役割にも大

きな影響を与えています。先進国、発展途上国という表現には歴史的な多少の上下感覚があると思いますが、現在では先進国と言われる国々と発展途上国の関係は、持ちつ持たれつあるいは途上国の経済成長に依存するといった状況になっていると思います。したがって他国民に對する文化理解を伴った対等な視点が必要とされています。

③ 少子高齢化社会の到来

少子高齢化社会の到来は、大勢としては世界的な現象と言えます。長生きは大変めでたいことであると思えます。次世代へのバトンタッチという面ではまだ社会習慣が熟していない面もありいささか問題があるように感じます。人間も生物である以上次世代にスムーズにバトンタッチすることが重要と思えます。リレーゾーンに入らず何週もしてバトンタッチするようでは、スムーズな世代交代は望めないと考えます。

以上のことから学園は、学生・生徒一人ひとりの幸せの実現の基礎となる知識・能力の涵養を図ると共に、生き方として建学の精神に基づく教育・研究活動を進めていくことが大事であると考えております。

学園の動き

奨学金事業の充実

学園では、第3代理事長木内四郎兵衛先生のご遺志に基づき平成18年に木内四郎兵衛記念教育研究充実基金を設立し、平成23年度から昨今の社会情勢に鑑み基金の運用益を一部活用し、経済的事情による学業継続困難者への支援充実を図っています。今年度も以下の支援事業を行ないます。

- ① 東日本大震災に伴う学納金等の減免事業（大学・大学院・短期大学）
 - ② 経済的事情による修学及び卒業の困難者に対する学納金減免事業（大学・短期大学）
 - ③ 家計急変又は家計状況による学納金減免等（中学・高等学校）
- 故 金巻サイ子先生のご寄附から備品を購入**

平成20年9月に故 金巻サイ子先生（中学・高校家庭科教諭）より受入れた施設設備拡充寄附金から、故人のご遺志を踏まえ、東京成徳大学高等学校の家庭科専用設備・備品（調理室ガステーブル台、包丁まな板殺菌庫）を購入しました。

大学定員変更及び新コースの設置

応用心理学部健康・スポーツ心理

学科と経営学部経営学科は平成25年4月から入学定員を、それぞれ健康・スポーツ心理学科は50人から60人に、経営学科は100人から140人へ増員をします。この変更により人文学部観光文化学科と応用心理学部福祉心理学科の入学定員を一部減員します。

また、経営学部経営学科では4月から新たにファッションビジネスコースを開設します。

大学・短期大学のセンター設置

1月から、大学・短期大学に入試・広報センター、就職支援センター、実習センターを設置しました。

十条台と八千代のキャンパスを横断したセンターを設置することにより、これまで以上に一体的で効果的な学生支援活動及び学生募集活動が可能となります。

中学・高等学校長

東京都教育功労者として表彰される

平成24年10月1日、東京都功労者表彰式において、木内秀樹中学・高等学校長が教育功労者として表彰されました。

中学・高等学校弓道場の耐震改築

昭和53年に建築された新田弓道

場は、平成24年10月から耐震改築工事を行い平成25年2月に完成予定です。

東京成徳大学深谷中学校 開校準備（認可申請中）

校舎は9割が完成して、机やイスなど備品の搬入を待つばかりとなつていきます。

昨年7月に第1回説明会を開催し、オープンスクールや仕事を終えた保護者向けにナイト説明会などの試みを実施してきました。回を重ねるごとに参加者からの地域の私立中学校への期待の大きさと、本校がその期待に応える使命の重さ

を実感しました。
1月10日に第1回の入試を行い、4月に新入生の笑顔で溢れるように準備を着々と進めています。



学園人事 平成24年8月—平成25年1月

就任		採用		退職		異動	
氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職
黒田定男	学 園 参 与	岡村義継	総務課長	田中保	学生生活課長	勝賀瀬純子	学修支援課係長
	(昨年7月に大学八千代事務局長を退任)	寺田稔	学生生活課長	飯島英雄	学生生活課	柴田真美	学生生活課係長
		今井業津美	総務課	奥澤華子	総務課	岩崎亜矢子	教務課
				伊藤絵美	事務職員	氏家典子	入学課
							前任

子どもと「いじめ」



大学院
心理学研究科長
新井 邦二郎

いじめの研究について

心理学は初め、どのような子どもがいじめられやすいのかに関心を持った。種々の調査の結果、成績や行動、容姿や服装、家庭環境などが悪かったり、反対に良くても、いじめの対象になりやすいことがわかった。しかし、いじめられる子どもにも問題があると仮定するような研究に対し、疑問や批判が出された。子どもを含めて人間に完全無欠な人はいない。だれもが問題の一つや二つあるから、いじめてよいという考え方は止めようとなった。

今は、いじめられる子どものほうに問題があるのではないか、家庭環境はじめ、その育ち方に、いじめに走らせる要因があるのではないかに研究の軸が移っている。いじめられる子どもを育てない、その予防や改善を行おうという発想である。それと同時に、

いじめを受けた子どもの心に、どのような傷が、どのくらい残っていくのか、それを克服するにはどのような考え方や経験が必要なのかなどについても研究が行なわれている。

いじめの深刻な影響

平成21年に滋賀県大津市の中学2年男子生徒が死を選択したように、度の過ぎたいじめは子どもに耐えがたい苦しみ（「生き地獄」と表現する子が多い）を与える。死を避けることのできた子どもでも、いじめられたことがつらい記憶として残り続けることが少なくない。不登校にはさまざまな原因や背景があるが、いじめを受けて学校に行けなくなる不登校は、とりわけ深刻である。いじめに対する恐怖心だけではなく、友だちや教師、さらには親に対する不信までも心に刻んでしまうことがあるからである。そのような子どもの場合、学齢期を過ぎ学籍がなくなつた後も社会に参加することが難しく、そのまま家に引きこもるケースが多い。いじめと人間不信の二重苦を経験したことにより、その人生が大きく狂ってしまう。

それゆえ、いじめを受けている子どもへの初期対応として、教師も親も「味方宣言」をすることが必要だ。

問題があるからいじめられていると、決して考えたり言ったりしてはいけない。「いじめられてつらいだろうが、あなたの味方になる」と伝えて寄り添い続けることが何よりも求められる。

いじめの解決

子どもの成長の姿として、些細ないじめに耐えていくのもありえる話であるが、悪質ないじめに耐えることを求めることはできない。子どもの安全は大人の責任で保障する必要がある。悪質ないじめによって子どもが尊い命を絶つたりその人生を狂わせたりしている現実に対し、学校関係者は保護者・警察・その他の外部機関と連携して、本気になって取り組むことが求められている。

いじめも早期発見と早期解決が重要だ。学校全体でいじめに本気で取り組んでいる学校では、いじめを早期に発見できる。いじめを目撃した子どもが報告しやすくなるのである。またいじめの加害者たちは、いじめの事実を目の前に突きつけられても否認することが多く、そのため解決に至らないことが少なくない。その壁を突破するために、いじめの事実確認の精度と教職員のチーム力・指導力が問われている。

東京成徳大学大学院

心理・教育相談センター

当相談センターは広く地域に対して開かれており、年齢や性別に関係なくさまざまな心理的問題に関する相談をお受けします。必要に応じて医療機関等をご紹介します。

- ・自分の性格に関する悩み
 - ・気分の落ち込みや不安
 - ・家族（親子関係・夫婦関係）についての悩み
 - ・仕事上の問題
 - ・育児に関する悩み
 - ・子どもの学習上の課題や進路についての悩み
 - ・不登校や行きしぶり
 - ・発達の遅れや障害に関する悩み
- 以上の問題について、心理療法、カウンセリング、家族療法、遊戯療法、心理検査、コンサルテーションなどを行います。



受付・お問合せ
03-3927-4117
東京都北区王子3-23-2
<http://www.tsu.ac.jp/gra/center/>

東京成徳学園の歩み① — 創立から終戦まで —



創立者 菅澤重雄先生



創立当時の校舎

東京成徳学園は平成27年に創立90周年を迎えます。学園の歴史を振り返り、教育への取り組みを全5回で紹介いたします。

東京成徳大学中学校・高等学校の前身である王子高等女学校は大正15年（1927年）4月10日に文部省から設立を認可されました。認可に当たって校舎の増築などが条件とされ、校舎の建築を進めました。が、当時昭和2年（1928年）は金融恐慌に端を発する世界的不況で本校も建築費の支払いが不能になり、そのとき認可を申請した設立者に代わって、私財を投じて支払いに応じたのが創立者 菅澤重雄先生であり、王子高等女学校創立直後に実質的な設立者となりました。

創立者 菅澤重雄先生

菅澤重雄先生は、明治3年（1870年）千葉県香取郡高津原（現在の多古町）に生まれ、成長するに及んで近隣の漢学者 並木栗水の螟蛉塾に入塾しました。塾には全国各地から門下生が集まり、師と起居をともにしながら作業や勉強（漢学・朱子学）に努めていました。そ

の一人として菅澤先生は青年期の8年間を過ごし、書道は1日に1升（1.8升）の水を使い切るまで練習をするという勉強や作業によって、後に努力の人、意思の人、負けず嫌いの人といわれる人となりを目指し、なかでも朱子学によって人格を形成させていきました。

弱冠27歳で県会議員に選出され、衆議院議員、後に貴族院議員として国政に参与する一方、明治末から大正にかけて3つの銀行を設立、渋谷急行電鉄を設立して社長に就任、千葉県の開墾事業を完成するなど実業家として多彩な活躍を続けていました。学校設立当初は議員や実業家であったため自ら校長には就かず、建築費を提供するなど校主として学校を支え、自らの教育の信念は「国家の興隆は終局にあつて教育であり、特に女子教育のレベルを高めなければありえない」とし、特に朱子学により人格形成をした者として、「徳育が教育の『かなめ』でなければならぬ」とする思いを持って学校を見守っていました。

「東京成徳」の誕生

順調に見受けられた学校経営もやがて、当時の校長と教育を巡る信念の相違が発生し、昭和6年

（1931年）11月26日、自らが校長に就任する決意を固め、名実ともに菅澤先生は学園の責任者となったのでした。これが認可日でもない11月26日を創立記念日とする所以と『東京成徳学園60年史』にあります。そして、10日後の12月6日に校名を王子高等女学校から「東京成徳高等女学校」へ変更する認可申請が行われました。

本学園の建学の精神「成徳」は「徳を成す」とし「有徳有為の人間の育成」です。菅澤の学問的素養である漢学に因るもので、「徳」とは中国の孔子の儒学に基づくものです。大漢和辞典には「心に養い身に得たもの」「イ、よい品格、口、ひとがら。人の思想、生活を統一するもの。ハ、性行・気質と記されています。また、広辞苑には「徳」①道をとつた立派な行為。善い行いをする性格。身についた品性。②人を感化する人格の力などと記しています。これらから人間が素直に内面から発する人間的な力という点が徳とされています。

昭和2年に高等女学校に続き開校された王子家政女学校は昭和9年に廃止され、同年新たに（1934年）東京成徳実践女学校



東京成徳高等女子学校 昭和16年現在の生徒数

1年	199名
2年	257名
3年	303名
4年	191名
合計	950名

が設立されました。当時の生徒募集のパンフレット(贍写版刷)には「みなさんの近くにこんな良い学校が出来ました!!尋常科を卒業して高等科に行くかわりに僅かな費用で、しかも2ヶ年で実際に役立つ人をつくる学校です。」と記されています。この学校は昭和14年(1939年)に東京商業女学校と校名が変更され商業科目を充実整備し、校舎も増築、修業年限を3年とした学校が誕生しました。

生徒数も昭和15年(1940年)1月で東京成徳高等女子学校は730名、東京商業女学校は131名、計861名という都内でも有数の私立学校へと発展したのです。「質実剛健、婦徳成就」が当時の校風目標でした。

戦時下の学校

同窓生の回想や記録を綴った『東京成徳学園60年史』に当時の様子があります。

一致協力・耐乏生活が呼びかけられ、困難な時代になりました。貴重な労働力として女子学生が勤労働員され昭和16年には報国隊・女子挺身隊が結成されました。教科書らしいものはなく、主要教科のみわら半紙1枚位のパンフレットが配られた程度、先生の板書の文字だけが頼りの

勉強でした。さらに昭和19年(1944年)には決戦非常措置要綱に基づき、生徒動員実施要項により勤労働員が通年実施となり、授業は全くなくなりました。学校は軍需工場化され校庭は食糧増産のための農場となりました。昭和20年(1945年)2月理科室及び割烹工場が学校工場として使用中に焼失し、大きな被害を受けました。

軍関係の工場が多い北区は空襲もありましたが、幸いにして学校校舎は消失を免れ、焼け出された人びとの避難場所となり、また、生徒たちはつぎつぎに地方へ疎開していきました。そして、8月15日、生徒たちは講堂で玉音放送を聴き、終戦を知ったのです。

8月18日、勤労働員は解除され、全校生徒は久しぶりに、一面の焼け野原に残る学校に集まり、菅澤重雄校長より「ボツダム宣言の受諾と今後の心構え」について訓話がありました。そして、戦争終結から3週間後の9月4日には、授業が再開されました。これは都内の学校でも比較的早い授業再開で、校長をはじめ教職員が、「教育は一日もゆるがせにできない」という理念を厳守したとあります。

(つづく)

国際交流

グローバル社会への人材育成は今日の大学の使命の一つとなっており、東京成徳大学でも世界に羽ばたく人材の育成として交流協定を結んでいる海外大学との交換留学や留学をしても在学4年間で卒業できる短期留学制度を実施しています。

今回はこの制度で短期留学をした人文学部国際言語文化学科の学生3名と韓国白石大学校からの2名の留学生にお話を伺いました。

Q. 大学では何を学んでいますか、また、なぜ留学を志したのですか。



イ・ホジンさん
韓国白石大学校
留学期間平成24年9月
～平成25年2月

白石大学の経商学部経営学科で経営学を学んでおり、同時に語文学部日本語学科で日本語を学んでいます。以前から日本に関心があり、日本との交流行事に参加したりしていました。そして、将来のためにも日本への留学経験が必要だと思いい、東京に近い東京成徳大学を留学先を選びました。



キム・チエジュンさん
韓国白石大学校
留学期間平成24年9月
～平成25年2月

私もイさんと同じ白石大学校で経営学と日本語を学んでいます。日本への留学を決めたのは海外で色々な事を経験して、視野を広げ、考え方を変えたいという思いと、日本語の実力を伸ばすためには、生活の中で使うのが一番よいと思ったからです。地理的な利点が大きく、設立された時期が白石大学校と同じ頃だったので、韓国と日本の大学ではどんな違いと共通点があるか気になり成徳を選びました。



小川すみれさん
4年オーストラリア
オーストラリアン・カン
リック大学 留学期間
平成22年8月～平成23年4月

大学では英語を中心に学んでおり、子どもの頃から留学や海外生活に憧れていました。大学に入り英語の実力を伸ばすために留学を決定し、インターンシッププログラムがあり、留学期間の長いオーストラリアに決めました。



秋山結花さん
3年韓国白石大学校
留学期間平成24年2月
～平成24年6月

現在はイさんとキムさんのクラスメイトで、韓国語を中心に学んでいます。白石大学校への留学は、語学力を向上させ、自分自身に変化をもたらすために留学を決めました。



中松あゆ美さん
3年中国大連理工大学
留学期間平成24年2月
～7月

上海万博が開催されている時に上海とその周辺を観光で訪れたことがあります。その体験から中国と係わっていききたいと思い語学力の向上と自己を発見し成長するため留学をしました。

Q. 語学の勉強と留学先での生活について。

イさん 日本語を勉強しているみんながそうだと思いますが、漢字の勉強が難しいです。勉強をしていると語学能力が急に上がったり、ある時は横ばいに停滞してしまう時があります。その横ばいの状態の時は単語も文法も頭に入っていない

ので一番つらいです。

現在、成徳では将来のために英語にも力を入れています。半年の留学期間は毎日があつというまに過ぎていきます。韓国にいたころに知りあつた友人に会いに福岡や名古屋に行ったり、留学の希望でもあつた東京に近いため、東京を見学したりしています。

キムさん やはり漢字や語彙、慣れない尊敬語と難しい文法に苦労しました。また、読む速度をあげることも頑張りました。

大学では発表の方法、レポートの書き方、口頭表現法などを学んでいます。韓国では日本語で発表したことが無かったので、自分で書いた文章やレポートを発表して自信が付きました。その他に歌舞伎や能など伝統文化を学んでいます。大変難しいです。授業が朝から夕方まであるので遠くに行くことはできませんが、八千代でお気に入りのお店を探したりして毎日を過ごしています。

小川さん オーストラリアでは毎日新しい発見があり、学ぶことばかりでした。特に英語については勉強にならないことは何も無いという感じで、一つの単語でもネイティブ

スピーカーとの会話から新しい表現の仕方を学べ、新しく知った表現や単語はなるべく早く実際に使用してすぐ身に付けるようにしました。

私のホームステイ先は母と子供2人の3人家族で、私の他にもう1人の留学生（タヒチ・フランス・イスなどすぐ変わっていました）がおり、5人全員で夕食をたべることがきまりになっていて、その時は各人がその日の出来事を話すことはコミュニケーションを磨くとてもよい勉強になりました。

秋山さん 韓国語は勿論のこと、「自分よりも相手のことを考えて行動する」ことの大切さや、「いつも感謝の念を忘れない」などコミュニケーションをとる上で大切なことを沢山学びました。大学の寮（2人部屋）で暮らし、クラスでたった1人の日本人として授業に集中し、1ヶ月半を過ぎた頃からやっと授業内容が理解できるようになりました。

中松さん 大学の寮に入り、私より1歳年上の日本人の女性とルームメイトになり生活をしました。最初に学力テストがあり、それによってクラスが編成されました。最初は中

国語の授業についていけませんでしたが、ルームメイトと同じクラスで語を学んでいるので大分助けてもらいました。なんとか彼女に負けまいと中国語漬けの日々を過ごす日々でした。

大連は日系企業も多く暮らしやすいから留学先に選ばれましたが寮では自炊できないのでコンビニやお店でいろいろなものにチャレンジして生活を楽しました。また、大学のイベントでスピーチコンテストがあり、中国と自分の関係を3分間話したことで、人前で話す自信ができました。私自身の行動力に積極性が増したと思います。

Q. 将来の目標と留学後の感想。

Q. 将来の目標と留学後の感想。
イさん 将来は航空会社で客室乗務員になることを目指しています。もし、韓国の航空会社で働くことができたなら、韓国と日本を結ぶ便で今まで勉強してきた日本語を十分に発揮したいと思います。また、その

ためにも英語にも力を入れて勉強しています。できればアメリカにも留学したいと考えていますが、まずは後期試験をクリアすることが優先です。

キムさん 経営学を学んだので流通業界への就職を希望しています。日本で見て経験したことは私が将来、経営戦略を立てる時に役立つと思います。また、日本語能力は日本企業と取引するときに役立つと思います。

小川さん 「人間どうしの交流が一番大切」「さまざまな国の人と接することが、一番互いの国を知る良い方法」だと思います。お金をためて、またいつか海外生活に挑戦したいと思っています。

秋山さん 留学先で不便なこと、大変なこともいくつかありましたが「常に目標を持ち、目標に向かって努力し続ける」ことの重要性を学び自分自身の成長に繋がったと思います。将来は東京ディズニーランドで韓国語のできるキャスト（従業員）になることを目標にしています。
中松さん 世界各国にそれぞれの伝統文化があります。それを互いに知り、理解を深めることで更に仲良く、交流も活発になるし、よりよい関係が築けると思います。

それぞれがかけがえのない留学体験をしてきたようです。イさんとキムさんは日本にきて日本人の礼

儀正しさに触れたり、日本から留学した3人は、世界の中の日本を認識するとともに、実際に体験することにより語学も向上することができたようです。中でも中松さんは留学中に、HSK試験（中国政府公認の中国語資格試験）5級（一番上の6級に次ぐ好成绩）に合格するなど実績も出ています。

また、留学経験者からは留学後に語学力が落ちるのが不安なため、授業以外でもキャンパス内で留学生と交流できる場や語学力を磨く機会を充実してほしいとの要望もありました。



社会交流

深谷高校

保育園児に演奏会のプレゼント

吹奏楽部は毎年地元深谷の保育園や幼稚園に伺いボランティアで演奏をさせていただいています。

昨年12月19日に深谷市東方の社会福祉法人東光保育園に伺い130名を超える園児たちにクリスマス演奏会をさせていただきました。

3年生は引退していただきますので代表の井上朋さん(2年)以下11名のメンバー、加えて保育コース1年生7名も参加しました。

園児たちに楽しんでもらえるように顧問の立花先生が当部のOGで同保育園に勤める卯西先生と連絡をとりいろいろ趣向をこらしてくださいました。オープニングは保育コース7名によるパネルシアター「クリスマスつてなあと」で園児たちの興味をそそり、最初の演奏は大人気の「アン・パンマンのマーチ」。曲が終わると顧問の立花先生が軽妙な話術で吹奏楽部員の楽器を紹介。トランペットのマウスピースだけの音に園児たちは爆笑していました。「大きな古時計」の時はウッドブロックの音で園児たちを



びつくりさせました。「森のくまさん」の演奏の時は園児たちから手拍子の応援がでる騒ぎ。再び保育コース7名が登場し、メドレーで合唱しながら手づくりのプレゼントを園児に配りはじめました。そして、サントさんが登場、お菓子を配りはじめ全員でクリスマスソングを熱唱、園長先生が「園児たちは初めて生の音楽に接し、本当に良かった」と感謝の言葉を述べられ非常に実り多い演奏会でした。

吹奏学部は第53回埼玉県吹奏楽コンクールで金賞をいただきましたが、今年は関東大会に出場を目指しています。

大学八千代キャンパス 八千代キャンパスのルーツは？ 栗谷遺跡展開催



10月27日・28日に八千代キャンパスで第19回翠樟祭が開かれました。八千代市教育委員会・八千代栗谷遺跡研究会の協力で栗谷遺跡の貴重な出土品・土器などが研究棟1階の伝統文化資料室に展示されました。

本学は創立20周年を迎えますが、大学の建築に先立って埋蔵文化財調査が行われ、その結果大学敷地周辺からは縄文時代〜平安時代にかけての多くの遺物が出土しました。「栗谷遺跡」と名付けられたこの遺跡は合計で竪穴住居跡188軒、方形

周溝墓16基、掘立建物跡13棟という大規模なもので、特に弥生時代後期の集落としては、印旛沼南岸最大の集落遺跡となっています。

今回の展示は弥生時代後期の「A80住居跡」(大学正門正面の鉄塔脇)の住居から出土した遺物を一同に集め展示されました。蓋形土器、小型甕、弥生式土器、小型壺、小刀、尖頭器(石槍先端)などで「栗谷遺跡」に生活していた人々の暮らしを知る手がかりとなりました。

本学のキャンパスはこのように歴史のある場所に建てられたのです。(平成24年度第2回企画展 栗谷遺跡展資料より引用)



栗谷式土器

ひと

『活躍する卒業生』

大学人文学部英語・英米文化学科
(現・国際言語文化学科)

(平成14年3月卒業)

マルカイコーポレーション

バイヤー 大島 久直さん

大島さんは、大学卒業後、飲料メーカーに就職。その後、商社へ転職し、



現在はアメリカロスアンゼルスにてバイヤーとして活躍されています。学生時代は英米文化を学ぶとともに、その反面から、日本文化への関心を深め、世界へ日本文化を紹介したいとの夢を持ちました。

みなさん、こんにちは。

東京成徳大学英語・英米文化学科6期の大島久直です。現在、ロスアンゼルス近郊ガーデンナゼルス近郊ガーデンナ市で商社のバイヤーとして仕事をしております。

Q. 現在の勤務先は

現在の勤務先のマルカイコーポレーションは、商社としてロスアンゼルスとハワイに拠点を設け、当初は日本からの雑貨、家具、健康食品、健康器具、電気製品などの輸入販売を主業務としていましたが、1982年に商社の特性を活かし、海外日系小売業では初の「会員制

マルカイ・ホールセールマーケット」をロスアンゼルス近郊、ガーデンナ市にオープン。独自の仕入ルートを確立し、かつ大量仕入と適切な在庫管理を行い、従来の「値段の」高い日本製食品のイメージではなく、信頼価格で商品をお客様にご支持いただき、以後ロスアンゼルス地区のプライスリーダーとしての地位を確固たるものにいたしました。

4万5千スクエアフィート(約4200㎡)の店内には日本食料品、雑貨はもちろん、陶器、健康関連商品、化粧品、日本家具、着物、アンティークなど、全米No.1を誇る幅広い商品ラインを揃えております。現在、9店舗展開。

Q. 転職するに至った理由

東京成徳大学を卒業し営業マンとして入社した伊藤園では入社3年後に銀座中央支店で売上No.1にもなり遣り甲斐を感じていました。しかし、学生時代に英米文化を学んだことがきっかけで、アメリカで自分の力を試みたいと思うようになっていた矢先、縁あって現在の職場と出会いました。伊藤園でも日本の食文化であ

る緑茶を世界に広げることが出来たのですが、更にさまざまな日本の文化を世界に広げたいという思いが強くなり、直接第一線で挑戦するべく渡米を決断し現在に至りました。

Q. 現在の仕事の内容

MARUKAI GARDENA MAIN STOREにおける現在の私の業務は、日本と全米の間屋から商品の仕入れを行うことで、いわゆる「バイヤー」です。メーカーの営業とは逆の立場になったわけですが、面白い半面、今まで以上にしんどい場面もあります。特に初めの頃は、英語での商談が苦痛で仕方ありませんでした。しかし、慣れるもので、今では、こちら主導の商談ができるようになりました。

全ての商品知識を兼ね備えた名バイヤーを目指し、サムライ魂を忘れずに、日本の文化を広げるために、日々精進して行きたいと思っております。

Q. 後輩へのメッセージ

今できることに全力で挑むこと。勉強・スポーツ・遊び・恋愛など。これは大学時代に身に付けたことです。

就職状況

厳しい就職環境は平成24年度も変わらず、特に民間企業への就職希望者は卒業を間近に控えたこの時期でも未決定者がおり、まだまだ就職活動を続けざるを得ない状況にあります。

大学の就職状況

人文学部・応用心理学部

現4年生から就職に関する広報活動の開始時期が、3年生の12月となりました。実質的な就活期間が2ヵ月短くなり影響が懸念されましたが、マイキャリア講座（就職講座）での事前指導が奏功して、大きな混乱もなく落ち着いて就活に取り組めたようです。10月末時点で卒業見込み者20名のうち進路決定者は92名で進路決定率46%となり昨年同時期を上回っています。

健康・スポーツ心理学科の女子はこの時点で83%と非常に高い決定率となつています。「卒業したら「正社員」を合言葉に、ハローワークマッチング相談会、学内企業セミナー兼面接会等を毎月のように開催し、卒業までには全員が希望の進路を勝ち取るよう支援

を続けています。

3年生も12月1日の幕張メッセの合同企業説明会からいよいよ就活がスタートします。実際に企業の採用担当者と同じくすることになるのですが、まだまだ準備不足の学生が多く、積極的に就活準備に取り組んでもらいたいものです。保護者の皆様におかれましては是非ご家庭でも進路についてお話しただければ、と存じます。

子ども学部・経営学部

今年度の子ども学部の4年生は85%が保育士及び幼稚園教諭を目指しています。昨年からのコース別就職支援プログラムや公務員試験対策講座等準備をして、今がピークとなっている採用試験に臨んでいます。現在公立の保育園、幼稚園を中心に内定率は50%超になっており、最終的には例年同様ほぼ100%になると期待されます。

経営学部ではいよいよ今年度第1回目の卒業生を出します。3年生の時から実践的な就職支援プログラムをこなし、特に筆記試験対策講座には熱心に参加し、またゼミ指導者を中心にきめ細かい指導もあり色々な準備をしてきました。例年より2ヶ月遅く始まった

就職戦線で多岐に亘る業種に挑戦しております。今の所後述の内定先を確保しており、内定率は50%近くにまでなってきました。

平成24年度 大学就職内定先（一部）

〔人文学部・応用心理学部〕 (株)エイ・ネット、AGC 硝子建材(株)、(株)エム・エイチグループ、(株)エポックススポーツクラブ、(株)オリエンタルランド、鹿島建設(株)、木村実業(株)、コープネット事業連合、(学)慈恵学園、(株)住友不動産エスフォルタ、(株)チップフンストップ、東日本旅客鉄道(株)、(株)ミリアルリゾートホテルズ、(株)目黒雅叙園、(株)やさしい手、(株)ヨークマート、東邦鎌谷病院、(福)愛光、(福)武蔵野会、千葉市消防局、陸上自衛隊 等

〔子ども学部・経営学部〕 (株)ナルミヤインターナショナル、(株)ユニテッドアローズ、イオンリテール(株)、コイズミ照明(株)、(株)ゴルフドゥ、(株)スタジオアリス、第一生命保険(株)、三国コカコーラボトリング(株)、日本郵便(株)、リソなグループ、品川区保育士、世田谷区保育士、葛飾区保育士、熊谷市保育士、千葉市保育士、城山みどり幼稚園、戸田幼稚園、塩浜幼稚園、松江ひかり幼稚園、ルネサンス呑龍幼稚園、王子隣保館保育園、もとの木保育園 等

Q. 就職活動を振り返って

3月頃まではあまり実感がわかなくてなんとなくお付き合いで就活をしているような感じでした。ところが1社、最後の面接で落とされてから本気モードになり、エントリー数も増えていきました。エントリーが約50社、説明会や選考が23社、面接13社というのが私の就活でした。途中くじけそうになりましたがあきらめないで活動し続けた結果7月にキャリア支援担当から紹介された木村実業(株)から内定をいただくことができました。

Q. 後輩のみなさんにアドバイス

なんととっても「あきらめない」とです。不合格が続くと心が落ち込んでいきますが、そこは気合いを入れて前に進むようにすることです。また、どんなときでもキャリア支援担当は頼りになります。希望に沿った求人案件を紹介してくれたたり元氣付けてくれたりします。キャリア支援担当に積極的に相談しましょう。面接では暗記は通用しません。事前に志望動機等をよく考えておきましょう。それと慣れない場所では迷子になります。試験会場には早めにいくようにしましょう。

内定者インタビュー

木村実業(株) 内定

応用心理学部健康・スポーツ心理学科



友野 ちあきさん

就活は自分を成長させてくれる良い機会だと思います。ぜひ就活を楽しんでください。

船橋市立保育士合格

子ども学部子ども学科



田嶋 舞さん

Q. いつ頃から保育士を目指しましたか？

中学生の頃から、子どもに関わる仕事がしたいと考えていました。大学の講義や実習を通して子育て支援がしたいと考え、保育士を目指しました。

Q. どのように勉強しましたか？

3年生の冬頃から、公立保育士の試験に向けて勉強を始めました。専門教科では、参考書や指針に加え、厚生労働省や文部科学省のホームページなども参照しました。一般教養については、友達と教え合いながら、毎日勉強を進めました。小論文は、受験する自治体の次世代育成支援行動計画なども読みながら練習を重ねました。

時には勉強が思うように進まず、挫けそうになることもありましたが、同じ目標に向かってがんばる友達と励ま

し合うことで、乗り越えることができました。

Q. これからの抱負を

信頼される保育者となれるよう、これまで培ってきた経験や学びを礎にして、誠実な姿勢で保育に向き合っていきたいと思います。そして、子どもも保護者も安心できる保育者となれるよう日々精進していきます。

Q. 先輩のみなさんにアドバイスを

「意志あるところに道は開ける。」この言葉を胸に私は試験に臨んで来ました。辛いこともたくさんあると思います。しかし、努力は裏切らないと思いますので、決して諦めないでください。そして、頑張ってきた自分を信じてください。きっと大丈夫です。

短期大学の就職状況

言語文化コミュニケーション科最後の卒業生となる2年生20人は、1年後期からの就職支援プログラムを受講し、就職活動に積極的に臨んできました。その結果、11月末の内定率は65%にまで上がって来ました。

幼児教育科2年生は例年と同様にほとんどもが保育士及び幼稚園教諭を目指

平成24年度 短大就職内定先（一部）

MUセンターサービス東京(株)、鹿島東京開発(株)、(株)クロスカンパニー、(株)ジーフット、(株)ジェイ・エス・エス、(株)トヨタレンタリース埼玉、(株)日本ビジネスリース、さいたま市保育士、川口市保育士、船橋市保育士、清秀幼稚園、染谷幼稚園、チェリー幼稚園、東京成徳短大付属幼稚園、平和台幼稚園、おひさま保育園、東京自由保育園、ひまわりDoDo 保育園、みのり保育園、認定こども園篠崎若葉幼稚園 等

しています。現在（11月末）が選考活動のピークで現在の内定率は60%です。年末年始にかけて昨年実績の内定100%に向かって活動が続いています。

内定者インタビュー

(株)日本ビジネスリース 内定

言語文化コミュニケーション科



瀨能 早紀さん

Q. 職種や業種の絞り込みは？

卒業後は事務職に就こうと考えていましたので、あまり業種にはこだわらず、事務職の募集がある会社の説明会には積極的に参加しました。

Q. どの様に活動しましたか？

活動を開始した時期は春休みでしたが、まず自宅のパソコンから学校へ来ている求人チェックをしました。始めは分からないことも多く戸惑う事もありましたが、選考を重ねていくうちに大分慣れたような気がします。また外部の就職ナビ等を並行して利用したことも多いに参考になりました。学校に来る求人に加えて、出来る限り多くの情報源を利用することが肝心と思えました。

Q. 力を入れた科目は？

一般の事務ということで様々なスキルが求められると感じたので、パソコンの資格だけでなく、色々な資格取得に挑戦しました。その中では、サービス接遇検定の面接試験が、実際の選考での面接で多いに役立ちました。

Q. 就活を振り返ってのアドバイス

何度も選考がうまく行かないことがあったのですが、その時は気持ちを切り替えて次のステップを考え、そして最後まで諦めない事が大切だと思います。

〔八千代キャンパス学生支援課
十条台キャンパス学生生活課〕

大学院

王子スクールカウンセラー研究会
のご紹介 教授 田村 節子

王子スクールカウンセラー研究会(以下、OSCC)は、昨年2部構成で発足しました。1部は学校現場に役立つグッズ・ツール・プログラム作り、2部では学校をめぐる課題や対応策の検討を行います。スクールカウンセラーの活動に関心があり、子どもや保護者、先生方の役に立ちたい人が、自由にアイデアや発想を持ちより、自分のやりたいことを誰が使えるようなツール等の形にすること(1部)と、その過程や参加者同士の話し合い(1部+2部)を通じて、私たち自身が生き生きとすることが目的です。参加者は主催者(教授田村節子)と、現在スクールカウンセラーとして活躍している修了生、および現役院生、学部生などです。さらに開発したグッズの効果を検証する OSC-brains(頭脳集団)として、阿部宏徳准教授、石村郁夫助教、山口正寛助教にも加わっていただいています。

1部では、昨年度から「面探偵困難」という名のカードゲームを開発しています。このカードゲームは、



カードゲーム開発過程

トリーミングの4原則(自由奔放、批判厳禁、質より量、便乗発展)にとり話し合いを進めています。

デジタルネイティブ世代の今の子ども達は、表情から気持ちを読み取ることが苦手だったり、若いお母様方の中にも子どもの表情を読むことが苦手だとおっしゃる方もいます。発達障害があるおさんも表情が読みとりにくく苦戦を強いられています。



カードゲーム「面探偵困難」説明用動画

そこで、「遊んでいるうちに知らぬ間に表情を読み取るコツがつかめ、楽しい気分も生まれるカードゲーム」を開発の目的です。現在は、試作されたカードゲームの取り札や読み札の表情写真と感情どうか検討するために、質問紙による調査を行い、結果のデータ入力を行っているとところです。一致率から妥当性を確認し、最終的に使用する表情カードを決定する予定です。さらに、このカードゲームで遊ぶことで、「表情認知の正確性が向上するのかわ」「感情状態は変化するのか」等の効果研究を、調査協力者を募って時間の経緯を考慮に入れて研究する予定です。なお、これら一連の研究は、東京成徳大学大学院心理学研究科研究倫理委員会の審査で承認されています。効果が確認されたら実際の学校現場や家庭で使用で



試作品で遊びながら微調整

ゲーム」というのが開発の目的です。

現在は、試作されたカードゲームの取り札や読み札の表情写真と感情どうか検討するために、質問紙による調査を行い、結果のデータ入力を行っているとところです。一致率から妥当性を確認し、最終的に使用する表情カードを決定する予定です。さらに、このカードゲームで遊ぶことで、「表情認知の正確性が向上するのかわ」「感情状態は変化するのか」等の効果研究を、調査協力者を募って時間の経緯を考慮に入れて研究する予定です。なお、これら一連の研究は、東京成徳大学大学院心理学研究科研究倫理委員会の審査で承認されています。効果が確認されたら実際の学校現場や家庭で使用で

きるようにすることが最終的な目標です。

2部では、「ミニミニカンファ」と称しスクールカウンセラーとして修了生が活躍している現場での課題について、事例検討を行っています。こちらは院生以上が参加条件です。出された課題の解決を目指しますが、課題を出した人が自分の援助のいいところに気づき元気になることも目的としています。

その他、9月には、東京都発達障害当事者の会イイトコサガシ代表冠地 情氏を招き、「コミュニケーションのワークショップ」を体験しました。

発達障害のある人の「生きづらさ」をテーマに当事者の手で開発されたワークショップを実際に体験することで、いかに共感が大切か、コミュニケーションにズレが生じるかなど、相手の身になる貴重な経験をしました。また、今後のOSCCの活動にも役立てられる体験となりました。



ワークショップ風景左前が冠地氏

るかなど、相手の身になる貴重な経験をしました。また、今後のOSCCの活動にも役立てられる体験となりました。

卒業生4人が後輩を前に

母校で講演！

●八千代キャンパスでは、人文学部・応用心理学部の全ての学生を対象に、キャリア教育の柱となる授業科目「キャリアデザイン」を開講しています。〈自分を知る〉〈様々な生き方を知る〉〈現実を知る〉という三つの学びを通して、学生一人ひとりが「自分らしい生き方」をデザインする力を身に付けていって欲しいとのねらいからです。

●〈様々な生き方を知る〉をテーマとする授業では、毎年、社会の各面で活躍する方々を講師としてお招きし、自らの生き方・職業観・学生時代の過ごし方・悩んだことなどについて、講演をして頂いています。

これまで、多くの外部講師をお招きしましたが、本学も開学してそろそろ20年を迎えようとしています。多くの卒業生を排出していることから、今年度と昨年度は、本学卒業生の中から4名の方に講演をお願いしました。

第3回：貝瀬浩司さん(国際言語文化学科第13期卒業生、近畿日本ツーリスト勤務)

―「出会いとつながり」―

第4回：大塚裕介さん(日本伝統文化学科第11期卒業生、八千代市議会議員、うなぎ太介経営)

―「人の間で：」あなたがあなたに出来ること― (下の写真)

●金さんは、「現実の社会は厳しいので、その中で生き抜いていくためには、大学時代に知識だけでなく心を鍛えてほしい」と語りました。

丸山さんは、「小さくてもいいから夢を持って欲しい。それを実現するためには、なりたいたい自分をイメージし、今何をなすべきかをしっかりと考えてみよう」と伝えました。

貝瀬さんは、「苦しい時に自分を助けてくれたのは周りの人たちだった。人とのつながりを大事にして、周りに感謝し、その中にいる自分を大切にして欲しい」と語りました。

大塚さんは、「就職活動では、採用のためのテクニックだけではなく、自分自身と向き合い、本当に守るべきものを忘れないことが重要です」と語りかけました。



●講演は、それぞれの卒業生の生き方・考え方がとても素直に、率直に、わかりやすく語られており、学生たちのハートに深く響くものであったように思います。

われわれ教員も、学生時代の悩みや生き方について、学生たちに語ることがありますが、なにぶん世代間ギャップは否めません。卒業生のお話は、学生たちには自分たちの将来に対するとても身近なモデルとして、大変参考になったのではないのでしょうか。講師を引き受けてくれた卒業生のみなさん、本当にありがとうございました。



子(こ)学部

「子ども学」とは(リレー掲載⑬)
「造形的な視座から」

教授 小野 和

幼児の造形活動は、活動の「過程」そのものを大切にすることが必要です。しかし、大人の中には、作品の「上手・下手」にこだわったり、子どもの造形活動を「無駄」「よごしてばかり」と、否定的にとらえる姿も見受けられます。幼児に関わる場合、時には大人も素材体験や造形表現の過程を味わい、子どもの感じていることを実感することも必要でしょう。この様な経験は幼児の表現を共感的に受容する一つの契機ともなるものです。

泥んこ遊び等を叱ってばかりいて、育児に疲れた母親が、保育参加の際に、わが子と一緒に粘土の活動を行いました。土の感触を味わい、触る、踏む、たたきつける、丸める、積む；等に没頭するうちに、気持ち晴々として、子どもと共に作る楽しさを経験することができました。後日「子どもの泥んこ遊び等を、楽しみながら受け止め

られるようになりました」と嬉しそうに話す姿が印象的でした。

また、前回のリレー掲載⑫「二つの世界を生きる子ども」の中で加藤理教授は、震災ストレスの中で極度の緊張状態にさらされた子どもたちが、無心に絵を描き続けていた姿について述べておられます。

この様に、素材と触れ合うことや、描くことに没頭する過程で、気持ちを発散する・落ち着く・高める等を経験します。造形活動には、日常目につきやすい、意思や意図をもって表わす「表現」の部分と、無意識のうちに気持ち吐露される「表出」の部分があるといえるでしょう。表出の部分は様々なしぐさや色、形、線の勢い等の中に潜んでいるので、受け止める大人には、感じ取る力や寄り添い、認める力が必要になります。デジタルネイティブともいえるような世代の学生達と共に、まずは子どもの造形活動を感じ取ることから、「子どもから学ぶ」子ども学を始める必要があるのではないかと考えています。

経営学部

ファッションビジネスコースの新設について

日本のデザインをクールだと評価したのは、アップルコンピュータの創業者だった故ステイブ・ジョブズでした。そんな時代の最先端にいた人間を引き付けるほど日本固有のアイデンティティへの憧れや関心が、世界中に静かな広がりを見せています。このように日本独自の文化が海外で評価を受けている現象はクールジャパンとよばれています。そして、今、官民が一体となつてクールジャパンを核とした産業振興策を強力に推進しています。このクールジャパンの中心的位置を占めているのがファッション分野であり、そのファッションを中心に据えたファッションビジネスは、我が国の新たな経済成長の原動力となるものとして大いに期待されています。

東京成徳大学経営学部の使命は、我が国の経済社会情勢の大きな変化(パラダイム・シフト)を見据え、日本の将来を担うであろう産業を研究し、そのような産業を担っていく人材を育成していくことにあります。その意味で、右記のように今

後、我が国の新たなリーダーディングンダストリーとして期待されているファッションビジネス分野に主眼を置き、その分野の研究とそこで活躍できる人材を育成することは経営学部の使命に合致するものといえます。

このような背景をもとに、経営学部では、平成25年度よりファッションビジネスコースを新設するとともに定員を従来の100名から140名に増員することとしました。

そのため、ファッションビジネス分野で活躍している織田晃先生、クール・ジャパン審議会委員でファッションジャーナリストの生駒芳子先生、テレビ出演で有名なファッションデザイナーのドン小西先生など多彩な教員を布陣しています。また「ファッションデザイン論」「ファッション流行学」「ファッション文化論」「アパレル産業論」「色彩研究」等々魅力的なカリキュラムが用意され、楽しく有益な授業を受けられるようになっていきます。

このような経営学部の新しい試みに注目していただき、是非ともご支援いただきますようお願いいたします。

言語文化「コミュニケーション科」

平成24年度の言コミの活動報告です。十条台キャンパスでの学園祭である桐友祭は、10月20・21日に開催されました。今年度は、2年Aクラスの企画した「ホットドッグ」が展示部門で優秀賞を頂きました。全体的に昨年よりも来客が多く盛り上がりつつ桐友祭ですが、言コミ関連の出し物は、この他、書道部の『書道展』、源氏を読む会の『源氏物語を訪ねて〜京都の旅〜』の展示がありました。



例年行なわれている伝統文化実演会は、『打楽器の魅力〜韓国伝統楽器チャング〜』と題して、実際に韓国の打楽器演奏を鑑賞しました。始めてみる楽器も多く、楽しむことができました。



学外研修も11月21日に行ない、築地見学と劇団四季の観劇を実施しました。

学生の活躍では、読売書法展、漢字部門に上村真奈美さんが入賞。また、例年応募している伊藤園おうちお茶新俳句大賞には、4人が選ばれ、その中の佐々木陽子さんの佳作特別賞受賞作品

悪役を配され天使魚を飼う

季語は、天使魚（熱帯魚、エンゼルフィッシュ）で、季節は夏。この春発売の商品に載ることになっていきます。

幼児教育科

バレーボール部 準優勝を飾る！

10月28日、第53回東京都私立短期大学体育大会にて、本学のバレー部が準優勝しました。

この大会は、東京都私立短期大学協会が主催し、東京都の私立短期大学の学生の部活動を後援するもので、バスケットボール、バレーボール、卓球、テニス、ソフトテニス、バドミントンの競技が行われています。

幼児教育科の学生で構成されるバレーボール部の2年生猪俣里紗さん（主将）をはじめとする8名が出場しました。

試合は、当日の棄権チームもあったため8チームでの戦いでしたが、本学のバレーボール部は1回戦、2回戦といずれも2-0のストレート勝ちで決勝戦に臨みました。決勝戦は日本体育大学女子短期大学であり、毎年優勝を続けている強豪チームです。各セット共にかなりの得点を重ねましたが、セットカウントは0-2となり惜しくも負けました。

バレーボール部は、毎年出場してはいますが、今回の試合はこれまでにない活躍で、準優勝の栄冠を勝ち



取ることができました。この時期、2年生は就職試験や最終学年としての授業のまとめの時期であり、部員が揃って練習時間を取れないことも多い中で、チームワークを固め部活動を進めてきた成果が実ったものと思います。

2年生の部員には短大生活のよい思い出になったことすし、1年生には来年度の試合に優勝をかけて頑張る新たな目標ができた大会となりました。

応援してくださった学生たち、後援者の方々にもお礼申し上げます。今後も、みなさま方の応援をよろしくお願いします。また、本学の学生で、是非バレー部に入って活動したいと考えている学生は、顧問（幼児教育科、宮下）、または学生生活課にお問い合わせてください。大勢の入り部をお待ちしています。

中高一貫部

桐蔭祭 スピーチコンテスト

9月29・30日に行われた桐蔭祭で、台風の影響で一部予定変更されるなか、中学1年生・2年生によって英語スピーチコンテストが開催されました。各クラスで行われた予選会を突破した12名の1年生と15名の2年生が日ごろの成果を発揮してくれました。



今年度より週6時間の英語の授業は、週3時間外国人教員と日本人教員によるスピーキングを重視したチームティーチングと週2時間

の日本人教員による文法指導、そして1クラスを半分にした少人数制で外国人教員による英会話の授業が週1時間という授業体制となりました。日頃から英語で話す機会を増やし、英語で表現することに慣れさせ、人前で自分の意見を述べられるようするという目標から、その成果を表す場としてスピーチコンテストが設けられました。

スピーチコンテストへ向けての練習は、夏休み前から始まりました。というのも、1学期の授業では、*This is* から始まる構文を用いて物や場所の描写に関する文を何度も繰り返し音読することや2人1組のペアで質疑応答するという練習が中心で、そこで学んだいくつもの文がスピーチの原稿にも使われたので、生徒たちが知らぬ間にスピーチコンテストに向けての練習はスタートしていたのです。1年生にとつては、まだまだ自分で文章を作るといふことは難しいところでしたが、このようにして身に付けた文に新たな情報がプラスされ、『東京の名所紹介』がコンテストの原稿となりました。

新たな内容が加えられた原稿を暗記してこることが夏休みの課題となり、2学期開始早々に各クラスで予選会が行われました。予選会では、練習不足により途中でリタイアするという生徒もいましたが、1学期に力を見せてくれた生徒がその後も地道な努力を続け、その力を遺憾なく発揮してくれました。また、1学期の授業では目立たなかった生徒が活躍してくれたこともあり、新たな発見をすることもでき今後に期待がもてる予選会となりました。

予選会を突破した生徒たちは、文化祭までの3週間、クラブやクラスでの文化祭へ向けての準備の合間に、練習会を行いお互いのスピーチを見て、自分のスピーチに役立てるなど、お互いに切磋琢磨し、文化祭が近づくにつれて同じ目標に向かって頑張る1つのチームのようになり、とても良い雰囲気になって



いきました。

いよいよ文化祭当日。生徒たちは緊張した面持ちで、それぞれ自分の世界に入り、最後の練習をしつつ、スタンバイをしていました。そして、スピーチ会場へ。会場となったホールの舞台横で出場者は出番を待ちました。そして、校長先生をはじめ、審査委員の先生や保護者の方々、応援に駆け付けた友人など多くの人々が見つめる中、コンテストはスタートしました。出番を待っている間は緊張した表情を隠せなかった生徒たちも、いざ自分の番となり話し始めると緊張もとけ、それぞれがそれまでの練習の成果を十二分に発揮することができ、スピーチを楽しんでいるようでした。応援にきていた他の生徒たちも大いに刺激をうけ、「次回は自分が！」と決意した生徒もいるようでした。

欧米諸国では、デイベートをはじめ、自分の意見をしっかりと表現することが当たり前ですが、そのような姿勢を英語を通して学び、コミュニケーション能力を身につけた成徳生が世界で活躍してくれることを願い、英語教育を発展させていきたいと思います。

『ストロベリーナイト』の作者
菅田哲也先生来校

当日は、図書委員・文芸部を中心に45名の有志生徒が参加しました。



菅田先生の心を東京成徳に導いた色紙
デザイン 図書委員長 前田安咲季

11月16日、高等部視聴覚室で朝日新聞社主催による菅田哲也先生の出張授業「オーサー・ビジット」が行われました。「オーサー・ビジット」とは、訪問してほしい作家にメッセージ(色紙)を送り、作家の心にもっとも響いた作品をつくった学校を訪問するという企画です。

した。終了後には、生徒一人一人と語り合いながらのサイン会もしていただきました。生徒の感想を紹介します。

Q. 授業で印象に残ったことは?

A. 小説は、メッセージ性とエンターテイメント性の調和された要素が必要で、主人公は物語のナビ

ゲーター役であることを菅田先生の作品を例に挙げて紹介してください。これからは物語の中に秘められた作者からのメッセージに着目しながら読み進めていきたい。

A. 「兎と亀」の逸話を、作品から読み取れるメッセージはそのままで物語を現代風にアレンジしたところがとても面白かった。

A. 菅田先生の作品はグロテスクな描写も多いが、先生は「事実を隠さずに表現する。残酷なシーンも鮮明に読者に伝える。」とのこと、物語も人生も楽しいことばかりではない。

Q. 授業を受けて思ったこと、考えたことは?

A. 「本気になれなきゃ叶わない。」自分も本気で夢に向かっていきたくて。

A. どんな仕事でも楽しい・面白いと感じられることを見出す。だからこそ生涯続けることができる。

A. 夢：やりたいことがあったらやってみる。可能性があるのなら何でもチャレンジしてみようと思った。

Q. 一番好きな作品は?

A. 『ストロベリーナイト』。犯人も様々な問題を抱えているところに

授業は、「小説とは・・・」というテーマで始まり、質疑応答を交えたとても楽しい時間となりました。「兎と亀」をモチーフにした小説を参加者とともに創作し、菅田先生が授業のために書き下ろしてくださった短編小説も紹介してください。

ひかれる。これが菅田先生のメッセージかな。

A. 『ガール・ミーツ・ガール』。夏美が信念を持ち続け、時には揺らぎながらもひたすら前を向いているところ。

Q. 菅田先生へのメッセージを

A. 私には夢がある。菅田先生には、夢を追うことの大切さと勇気を与えていただきました。

A. 私たちの未来への架け橋をつくってくださいましたように思います。

スタイリストになりたい、ベースを弾いている、詩を書いている、いつか菅田先生の本の隣に自作の本を並べるとライブ宣言した人など・・・参加した生徒たちは菅田先生に夢を語っていました。菅田先生は、「社会の厳しさを、仕事の尊厳さを、挫折の意味を知った上で、それでも譲れぬものがあるなら、もうやるしかない」とおっしゃっていました。

授業の内容はもちろん、生徒たちの心に響く貴重なお話をたくさん聞きました。ありがとうございました。

深谷高校

第5回「手紙でつむぐ」ありがとうの思い」池田享平さん最優秀賞受賞



者に感銘を与えていました。

池田さんは、夏休みに建築業を営む父親の手伝いで現場に行ったり、家事をこなしてみても、普段父親にやってもらって「あたりまえ」と思っていたことが、「大変なことだ」と実感し、感謝の気持ちを手紙につづりました。

深谷市では郷土の偉人 渋沢栄一翁の心を受け継ぐ、「ありがとう」があふれる街づくりの取組みとして「ありがとう」の気持ちを伝える手紙を募集する「手紙でつむぐ」ありがとうの思い」を教育委員会が主催しています。そして、今年度は3年の池田享平さんが一般の部で最優秀賞を受賞しました。

12月2日に深谷市民文化会館で行なわれた表彰式では小学校低学年の部、高学年の部、中学校の部、一般の部のそれぞれの最優秀賞4点を朗読し、優秀賞9点が紹介され、来場

4月からは大学で建築を学ぶことになっており、将来は建築を教えるような仕事につきたいと語っていました。仕事は違えど父と同じ建築の分野での夢を目指しています。

第2回AED講習会開催

駅や空港、スポーツ施設、公共施設などで「AED」（自動体外除細動器）の設置を目にする機会が多くなったことと思います。最初は消防署や医療機関に設置され使用は医師に限定されていきました。しかし平成16年7月から一般の人の使用も認められ急速に普及したのです。

本校でも本館・アリーナ・野球部部室と3ヶ所に設置しています。11月15日午後3時より本校アリーナ柔剣道場においてAEDサポート会社のインストラクター3名の指導のもと、大谷校長はじめ全教員・各運動部から2名、合計70名を超す大勢の参加で胸骨圧迫とAEDの使い方を学ぶ大規模な講習会が開かれました。

本校では救命講習を受講した教員・生徒が多数いますが、現在は体育の授業でこのAEDのデモンス



トレーションを行い、使用方法を学ばせています。しかし胸骨圧迫といってもどれくらいの高さで行ったらいのか、実際にダミー人形の胸を2分間押し続ける作業は簡単ではなく、先生方も2分の長さを実感していました。

意識を失った人の右胸上部と左胸下部に電極パッドを貼りつける作業も一度体験しておくといざという時に迅速確実に行えます。本校では今後も定期的にこの講習会を開催していく予定です。



幼稚園

秋を探しに―園外保育―



季節の移り変わわりを感じ、秋を探しに年長組は11月14日に「旧古河庭園(北区)」、年少組は20日に「板橋動物公園(板橋区)」、年中組は22日に「都市農業公園(足立区)」に行きました。3日間とも天気の良い秋の風を感じる日となり、どんな秋に出会えるか心弾ませワクワクしながらバスに乗り出発しました。

農業公園に到着すると赤や黄色に色づいた葉や珍しい植物が出迎えてくれ、おもしろい形の葉や木々に興味を深め、会話を弾ませながら散歩をしました。

公園では野菜も栽培しており、お店で目にしても、畑でどの様に栽培されているか見ることができ、新たな発見がありました。「白菜だ」、「にんじんだ」と見つけ、「食べたことある」、「給食に出てきたね」と友達や先生と会話を楽しみ、素敵な時間を過ごしました。また、落葉拾いをし「赤い葉っぱ見つけた」、「黄色い葉っぱ見つけた」、「穴が開いてたけ

ど面白いから拾ってきた」とうれしそうに見せてくれました。

秋を感じ、体験して『紅葉』という言葉も覚えました。大きな発見と小さな発見の一つ一つが子どもの感じる心を育て素晴らしい成長につながる瞬間となりました。

クリスマスコンサート

12月10日恒例のクリスマスコンサートが開催されました。幼稚園では母親支援の一環として保護者向けに年2回無料で開催しています。母親コーラスの指導もされている声楽家の榎本太麻子先生の素晴らしい歌声が会場に響き渡り、ピアノの法領田れい子先生の繊細なピアノの音色に魅了されました。結成6年目の母親コーラスも加わり、Jポップスから本格的クラシック



の曲までバラエティーに富み、2部では大武教頭と梶山主任のフルートと母親コーラスのジョイントなど盛りだくさんのプログラムで、大盛況のうちに一足早いクリスマスを味わいました。

第二幼稚園

栗拾い遠足

去る9月14日、年中組で加須市の「むさしの村」に栗拾い遠足に行ってきました。

遠足に行く前には制作の時間に折り紙や紙皿で栗やいがの形を作ったり、「いがの中に栗がいくつ入っているのだろうか」などと話し合ったりして、栗拾いの日を楽しみにしていました。当日は、栗林の間を駆けめぐりながら子どもたちは大喜びで汗をかきながら夢中になって栗を拾い集めました。中には、いがの針に手こずり恐る恐る拾う子もいましたが、しばらくするとかごいっぱいになり、友達と笑顔で見せ合っていました。



翌日には、お友達と「昨日の夜、栗ご飯を食べたよ」「今日のお弁当に栗が入っているんだ」「また行きたいね」などと話し合っていました。

運動会

さわやかな秋空のもと、第37回運動会が10月13日に行われました。

この運動会のクライマックスは、何と言っても本園伝統の種目である年長組による「組体操」と「リトミック」です。年長組の子どもたちは、年少組、年中組の時からお兄さん、お姉さんの演技を見て少しずつ練習を積み重ねこの日を迎えることになりました。そして、およそ40分間にわたる力強く、緊張感にみちた演技を繰り広げ、会場の保護者から万雷の拍手を受けることができました。



子どもたちは、運動会という大きな行事を乗り越え、最後までやり遂げる力、お友だちと力を合わせて頑張ることの大切さに気づいてくれたと思います。

大学	
女子バスケットボール部 関東大学女子バスケットボールリーグ戦 4部	準優勝 入替戦の結果 3部に昇格
短期大学	
バレーボール部 (女子) 東京都私立短期大学体育大会	準優勝
高校	
テニス部 (男子) 私学リーグ戦 2部リーグ	1部昇格
弓道部 関東大会予選	男子優勝 女子 5位
バレーボール部 (男子) 東京都私学大会 高体連新人大会	ベスト 16 ベスト 16
陸上部 東京都私学大会 東京都新人戦	女子 400m リレー 3位 / 女子 100m 4位 / 女子 200m 4位 / 女子 1500m 4位 男子やり投げ 2位 女子 5000m 競歩 4位 / 女子 400m リレー 5位
バトントワリング部 第40回記念バトントワリング全国大会高等学校の部 / バトン編成 (中編成)	金賞
フットサル同好会 東京都フットサルチャレンジ U-18	準優勝 東京都ユースフットサル 1部に昇格
書道部 全国競書大会 (創玄書道会主催) 国際高校生書展 (毎日新聞社主催)	大会委員長賞 奨励賞受賞 入選
美術部 東京私立中学高等学校生徒写真・美術展	入選
深谷高校	
テニス部 (男子) 埼玉県私学大会	ベスト 16
バトントワリング部 関東ダンスドリル秋季競技大会ソングリーダー / medium 編成	3位
パワーリフティング部 全日本高等学校パワーリフティング選手権大会 埼玉予選会	74kg 級 1位 / 59kg 級 3位 / 59kg 級 3位 / 男子団体戦 4位
吹奏楽部 埼玉県アンサンブルコンテスト木管 6重奏	銅賞
新聞部 埼玉県学校新聞コンクール	優良賞
中学校	
バスケットボール部 (女子) 東京都中学校バスケットボール新人大会	優勝

**大学女子バスケットボール部
3部へ昇格**

昨秋行われた関東女子バスケットボール大会に出場し、4部で2位となり、3部の慶応義塾大学との入れ替え戦に臨みました。10月28日、聖心女子大学で行われた試合は第3クォーター終了時は11点のビハインド。第4クォーターで見事大逆転！59対51で勝利をおさめ目標としていた3部昇格を果たしました。



**ニユース
吉田沙保里選手と栄和人監督**

高校

10月20日、女子レスリング金メダリストの吉田沙保里選手とALSO KIIと日本女子代表の栄和人監督の講演が高等部第一体育館で行われました。同じ北区内に強化拠点・味の素ナショナルトレーニングセンターがある縁で来校され、生徒の様々な質問に答えていただきました。

第3回手作り絵本コンクール 表彰式

大学子ども学部子ども学科



高校生の部表彰式

11月18日十条台キャンパスにおいて表彰式が行われました。高校生と在学生を対象に行われたこのコンクールは年々応募作品も増加し、10月19日に5人の審査員によってストーリー、画面構成、色使い、画の完成度などについて厳正な審査の結果22編の入選作が決定し、入選者に永井学部長より賞状と副賞が授与されました。

高校生の部では市村亮さんの「び



大学生の部
学長賞「きのことり」廣瀬和実



高校生の部
学長賞「びんきちとハンカチ」市村亮

よんきちとハンカチ」が学長賞、子ども学部賞は三浦千歳さんの「ホシガルさんとまほうのえふで」。大学生の部では廣瀬和実さんの「きのことり」が学長賞、優秀賞は佐藤礼菜さんの「ふしぎなもり」。応募作品は子ども時代から絵本をたくさん読んできたことがわかる作品が多く、総じて柔らかく温かい作品が多数出品されていることが目立ちました。(審査員)

第3回千葉、観光の魅力 高校生フォトコンテスト表彰式

大学人文学部観光文化学科

「観光の視点から《千葉の魅力》を再発見していきましょう」の掛け声のもと今年は前年より多くの応募をいただき90点の作品が集まりました。それぞれが千葉県各地の魅力を描き出し、見るものに身近な観光の発見をもたらすものばかりでした。そして、その表彰式が10月27日翠樟祭当日に八千代キャンパスにおいて行われました。



本年は千葉県の高校生だけでなく、東京都や神奈川県からの応募もあり、入賞者は引率の先生、ご家族の方々と来場され表彰式に臨まれました。

式は八千代市豊田市長、加賀谷教育長、鎌ヶ谷市市川教育長などが臨席され祝辞を述べられた後に秋山学科長による講評が行われました。

受賞者一人ひとりを表彰し、最優秀賞には南房総市の和田漁港で伝統の捕鯨文化を象徴するクジラの解体を撮影した飯塚大地さんの「伝統」が受賞しました。

最優秀賞

「伝 統」飯塚大地

優秀賞

「春爛漫」金井 連

「希 望」渡邊 隼

八千代市長賞

「青春の1ページ」里川祐奈

八千代教育長賞

「バランス勝負！」河岸杏奈

鎌ヶ谷市長賞

「優しさに包まれて」伊藤 唯

鎌ヶ谷教育長賞

「夏の顔ぶれ」鈴木 京

作品紹介ホームページ

<http://tsu-itc.org/photocon/gallery/prize.htm>

平成 25 年入試カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1月		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10 ・深谷中	11	12 ・深谷中
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22 ・高校 ・深谷高	23	24 ・深谷高	25	26 ・深谷中
27 ・短大 ・大学	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
3月					1	2
3	4	5	6	7	8 ・大学（経営のみ）	9
10	11	12 ・大学（人文、 応用心理のみ）	13 ・深谷高	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

日	月	火	水	木	金	土
2月					1 ・中学 ・短大 ・大学	2 ・中学 ・大学院修士課程
3 ・中学 ・大学院博士 後期課程	4	5	6	7	8	9 ・深谷中
10 ・高校	11	12 ・深谷高	13	14 ・高校 ・大学	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28 ・大学		

※最新の情報については各校ホームページ等でご確認ください。



学校法人 **東京成徳学園** <http://www.tokyoseitoku.ac.jp>

東京成徳大学大学院 <http://www.tsu.ac.jp/gra> 電話 03-3927-4116

東京成徳大学 <http://www.tsu.ac.jp> **PC**

<http://www.tsu-mobile.com> **携帯**



人文学部 応用心理学部 八千代キャンパス入試・広報センター
子ども学部 経営学部 十条台キャンパス入学課

電話 047-488-1000 (直通)

電話 03-3908-4566 (直通)

東京成徳短期大学 <http://www.tsc.ac.jp> **PC**

<http://www.tsc-mobile.jp> **携帯**



十条台キャンパス入学課

電話 03-3908-4566 (直通)

東京成徳大学中学・高等学校

中高一貫部 <http://www.tokyoseitoku.jp/js>

電話 03-3911-2786

高等部 <http://www.tokyoseitoku.jp/hs>

電話 03-3911-5196

東京成徳大学深谷高等学校 <http://www.tsfh.jp>

電話 048-571-1303

東京成徳大学深谷中学校 (認可申請中) <http://tsfj.jp/>

電話 048-573-1784

東京成徳短期大学附属幼稚園 <http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind>

電話 03-3911-6337

東京成徳短期大学附属第二幼稚園 <http://www.tokyoseitoku.ac.jp/y-kind>

電話 048-854-2151

東京成徳スイミングスクール

電話 03-3914-2383

学校法人 東京成徳学園 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9 TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
法人本部企画調査室 東京成徳広報 第33号 平成25年1月発行